(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3145888号
(U3145888)
(45)発行日　平成20年10月23日(2008.10.23)　(24)登録日　平成20年10月1日(2008.10.1)

(51)Int.Cl.　F I
A47G 29/08 (2006.01)　A47G 29/08

評価書の請求 未請求　請求項の数 11　ＯＬ　（全 9 頁）

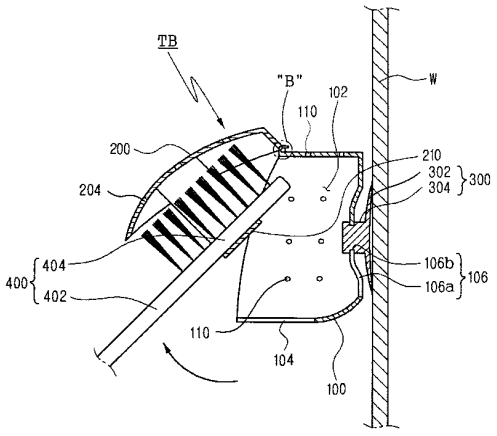
(21)出願番号　実願2008-5656(U2008-5656)
(22)出願日　平成20年8月13日(2008.8.13)

(73)実用新案権者　508246397
金　大雄
大韓民国京畿道安養市東安区坪村洞８９９－７番地　坪村アパート１１１棟３０２号
(74)代理人　100102842
弁理士　葛和　清司
(72)考案者　金　大雄
大韓民国京畿道安養市東安区坪村洞８９９－７番地　坪村アパート１１１棟３０２号

(54)【考案の名称】歯ブラシ掛け

(57)【要約】　（修正有）
【課題】歯ブラシやカミソリを歯ブラシ掛けで簡便に保管及び簡便にそこから取り出すことができる歯ブラシ掛けを提供する。
【解決手段】１つの面が開放された収納空間１０２が内部に形成され、別の面には挿入溝１０４が形成され、背面には結合孔１０６が貫通される本体１００と、を含む。保護引出カバー２００は、本体の開放面の一端にヒンジ部材により開閉可能にヒンジ結合される。案内口２１０は、保護引出カバー２００の片面に結合され、歯ブラシの頭部を収容して、歯ブラシの動作に連動して保護引出カバー２００を本体から回動させる。吸着具３００は、結合孔１００に分離可能に嵌められ、設置壁面に着脱可能に設置される。本体１００の挿入溝１０４の内壁には互いに対向して形成されるように係止段が突出形成され、かつ、歯ブラシは挿入溝１０４に嵌められて上記係止段を通過した後、係止段にかかって容易に抜けないことを特徴とする。
【選択図】図５

図５



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
胴部と前記胴部に引続き一直線状で延長形成される頭部とからなる歯ブラシを取出し可能に保管させ、設置壁面に着脱可能に設置される歯ブラシ掛けであって、
１つの面が開放された収納空間が内部に形成され、別の面には挿入溝が形成され、背面には結合孔が貫通される本体と、
前記本体の開放面の一端にヒンジ部材により開閉可能にヒンジ結合される保護引出カバーと、
前記保護引出カバーの片面に結合され、前記歯ブラシの頭部を収容して、前記歯ブラシの動作に連動して前記保護引出カバーを前記本体から回動させる案内口と、
前記結合孔に分離可能に嵌められ、前記本体を前記設置壁面に着脱可能に設置するための吸着具と、を含んでなり、
前記本体の挿入溝の内壁には互いに対向して形成されるように係止段が突出形成され、かつ、前記歯ブラシは前記挿入溝に嵌められて前記係止段を通過した後、前記係止段にかかって容易に抜けないことを特徴とする歯ブラシ掛け。
【請求項２】
前記ヒンジ部材は、
前記本体の開放面の一端に形成される第１結合片と、
前記第１結合片と分離可能に結合されるように前記保護引出カバーの一端に形成される第２結合片と、
を含んでなることを特徴とする、請求項１に記載の歯ブラシ掛け。
【請求項３】
前記第１結合片は、背面方向に折曲形成され、前記第２結合片は互いに離隔して形成される一対のヒンジ端を有し、
前記ヒンジ端の間には回動バーが連結形成され、前記回動バーは前記第１結合片に回動可能に抑止嵌めされる、
ことを特徴とする、請求項２に記載の歯ブラシ掛け。
【請求項４】
前記回動バーは、八角形断面で形成されることを特徴とする、請求項３に記載の歯ブラシ掛け。
【請求項５】
前記案内口は、前記保護引出カバーの長手方向に沿って貫通される函体形状を有することを特徴とする請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項６】
前記本体の表面には複数の第１通孔が形成され、前記保護引出カバーの表面には複数の第２通孔が形成されることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項７】
前記本体と保護引出カバーに芳香剤が含まれることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項８】
前記本体と保護引出カバーに発光体が含まれることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項９】
前記本体と保護引出カバーにキャラクター形状がデザインされることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項１０】
前記本体の結合孔は、面積が広い拡開部と面積が狭い狭小部とが結合してなることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。
【請求項１１】

前記本体と保護引出カバーは透明な材質で形成されることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の歯ブラシ掛け。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、歯ブラシ掛けに関し、より詳しくは、歯ブラシやカミソリなどを歯ブラシ掛けに簡便に保管及び取り出すことができるようにして、使用の便宜性を格段に向上させることができる歯ブラシ掛けに関する。

【背景技術】

【０００２】

一般に、歯ブラシは、歯牙と歯肉に発生するプラグを除去し、食物を摂取した後に歯牙の間に挟まった食物を除去して虫歯を予防するためのものであって、口腔の清潔を維持する衛生道具である。

【０００３】

通常、歯ブラシを使用した後、１つのカップや保管容器などに歯ブラシの頭部を上側に向けるようにして複数の歯ブラシを一度に保管することが大部分である。これは、歯ブラシの頭部が空中にそのまま露出された状態であるので、空気中に浮遊するほこりなどの異質物などが直接に接触して衛生的ではなかった。これに対し、最近は、このような問題点を解決するために、歯ブラシを１本ずつ保管できる歯ブラシ掛けが開発されて使われている実状である。

【０００４】

その代表的な従来技術としては、本出願人による２０００年３月２７日付で登録された大韓民国実用新案登録第２０－０１９６４４０号公報（考案の名称：歯ブラシ掛け）がある。

【０００５】

同公報には、歯ブラシ掛けが歯ブラシのヘッドを掛けて置くことができるように、下側に挿入溝が形成された本体、本体の前面に開閉可能にヒンジ結合された保護引出カバー、本体の後面に設置され、壁面に設置される吸着具からなる構成を有することが開示されている。ここで、保護引出カバーと本体は、一端がヒンジピンにより回動可能にヒンジ結合される。

【０００６】

かかる従来の歯ブラシ掛けは、設置壁面に吸着具を設置した後、保護引出カバーを開いて歯ブラシを本体の内部に保管する。そして保管された歯ブラシを使用するとき、保護引出カバーを開いて開放された本体の内部に保管された歯ブラシを取り出して使用する。

【０００７】

言い換えると、歯ブラシを歯ブラシ掛けに掛けて保管するとき、保護引出カバーをヒンジ結合された部位を中心として回動させて本体１つの面を開放する。次に、本体の別の面に形成された挿入溝に歯ブラシの頭部と胴部の連結部位を嵌めて固定させる。その後、本体の開放方向に回動させた保護引出カバーを閉鎖方向に回動させると、歯ブラシは保護カバーを閉じて本体の内部に保管される。本体の内部に保管された歯ブラシをまた使用するとき、本体とのヒンジ結合された部位を中心として保護引出カバーを本体の開放方向に回動させて歯ブラシを外部に露出させる。このように露出された歯ブラシを本体の挿入溝から取り出して使用すればよい。

【０００８】

しかしながら、このような従来の歯ブラシ掛けは、歯ブラシを使用するときには、本体の１つの面が開放されるように保護引出カバーをヒンジ結合された部位を中心として回動させて開き、歯ブラシの取っ手部を握って本体の内部から取り出す一方、歯ブラシ使用後は、歯ブラシを挿入溝に嵌めて本体に結合させ、開かれた前面カバーを前述とは反対に回動させて、本体の開放面に当接するようにしなければならないので、保護引出カバーの開け閉めする作業が面倒で、かつ不便であるという問題点があった。

【０００９】
［実用新案文献１］大韓民国登録実用新案第２０－０１９６４４０号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【００１０】
本考案は、上記のような従来技術の問題点を解決するために案出したものであって、本考案の技術的課題は、歯ブラシやカミソリを歯ブラシ掛けに簡便に保管及びそこから簡便に取り出すことによって、使用を便利にすることができる歯ブラシ掛けを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【００１１】
上記の目的を達成するために、本考案は、胴部と上記胴部に引続き一直線状で延長形成される頭部からなる歯ブラシを取出し可能に保管させ、設置壁面に着脱可能に設置される歯ブラシ掛けであって、１つの面が開放された収納空間が内部に形成され、別の面には挿入溝が形成され、背面には結合孔が貫通される本体と、上記本体の開放面の一端にヒンジ部材により開閉可能にヒンジ結合される保護引出カバーと、上記保護引出カバーの片面に結合され、上記歯ブラシの頭部を収容して、上記歯ブラシの動作に連動して上記保護引出カバーを上記本体から回動させる案内口と、上記結合孔に分離可能に嵌められ、上記本体を上記設置壁面に着脱可能に設置するための吸着具と、を含んでなり、上記本体の挿入溝の内壁には互いに対向して形成されるように係止段が突出形成され、かつ、上記歯ブラシは上記挿入溝に嵌められて上記係止段を通過したら、上記係止段にかかって容易に抜けないことを特徴とする。
【００１２】
ここで、上記ヒンジ部材は、上記本体の開放面の一端に形成される第１結合片と、上記第１結合片と分離可能に結合されるように上記保護引出カバーの一端に形成される第２結合片と、を含んでなることが好ましい。
【００１３】
上記第１結合片は背面方向に折曲形成され、上記第２結合片は互いに離隔して形成される一対のヒンジ端を有し、上記ヒンジ端の間には回転バーが連結形成され、前記回転バーは上記第１結合片に回動可能に抑止嵌めされることが好ましい。
【００１４】
上記回動バーは、八角形断面で形成されることが好ましい。
【００１５】
上記案内口は、上記保護引出カバーの長手方向に沿って貫通される函体形状を有することが好ましい。
【００１６】
上記本体の表面には複数の第１通孔が形成され、上記保護引出カバーの表面には複数の第２通孔が形成されることが好ましい。
【００１７】
上記本体と保護引出カバーには芳香剤が含まれることが好ましい。
【００１８】
上記本体と保護引出カバーには発光体が含まれることが好ましい。
【００１９】
上記本体と保護引出カバーにはキャラクター形状がデザインされることが好ましい。
【００２０】
上記本体の結合孔は、面積が広い拡開部と面積が狭い狭小部が結合してなることが好ましい。
【００２１】
上記本体と保護引出カバーは透明な材質で形成されることが好ましい。
【考案の効果】

【００２２】
本考案の歯ブラシ掛けは、保護引出カバーの内側壁面に案内口が設置されているので、歯ブラシの回転動作と連動して保護引出カバーが開放されると共に、歯ブラシを取出す動作が同時になされ、使用後歯ブラシ収納時には歯ブラシの回転動作に連動して保護引出カバーが閉じることになるので、歯ブラシ掛けの使用の便宜性が向上し、さらに歯ブラシが歯ブラシ掛けから離脱することを防止できる効果がある。
【００２３】
また、第１結合片と結合される第２結合片の回動バーを八角断面などで形成することにより、保護引出カバーの角度を調節できるため、歯ブラシ掛けの使用をより便利にすることができるという利点を有する。
【考案を実施するための最良の形態】
【００２４】
本考案の目的及び長所は、添付された図面を参照にした下記の実施形態の詳細な説明により、一層明確にする。
【００２５】
図１は、本考案の実施形態に従う歯ブラシ掛けＴＢを示す分解斜視図である。図２は、図１で示した歯ブラシ掛けＴＢが設置壁面Ｗに設置された状態の結合状態断面図である。図３は、第１結合片１０８と第２結合片２０２の連結状態を示すために、図２の“Ａ”部分を拡大した状態の図である。
【００２６】
図１～図４に示すように、本考案に係る歯ブラシ掛けＴＢは、胴部４０２とその胴部４０２に引続き一直線状で延長形成される頭部４０４からなる歯ブラシ４００を取出し可能に保管させ、設置壁面Ｗに着脱可能に設置される。本考案に係る歯ブラシ掛けＴＢは、本体１００、保護引出カバー２００、案内口２１０、及び吸着具３００を含む。
【００２７】
本体１００の内部には１つの面が開放された収納空間１０２が形成される。本体１００の別の面には挿入溝１０４が形成される。好ましくは、図１のように、本体１００の底面に形成されることができる。本体１００の背面には結合孔１０６が貫通される。結合孔１０６は面積が広い拡開部１０６ａが形成され、その拡開部１０６ａと面積の狭い狭小部１０６ｂとが結合してなり、鍵穴様の断面形状の態様を有する（図１参照）。本体１００の挿入溝１０４の内壁には互いに対向して形成されるように係止段が突出形成されることができる。歯ブラシ４００は、挿入溝１０４に嵌められて係止段１０４ａを通過した後、挿入溝１０４内で係止段１０４ａにかかって容易に抜けないことになる。本体１００の表面には複数の第１通孔１１０が形成される。第１通孔１１０を設けることにより、歯ブラシ４００を本体１００と保護引出カバー２００の間で保管される時、空気が流れて容易に乾燥することができる。
【００２８】
保護引出カバー２００は、本体１００の開放面の一端にヒンジ部材により開閉可能にヒンジ結合される。ヒンジ部材は、本体１００の開放面の一端に形成される第１結合片１０８を含む。第２結合片２０２は、第１結合片１０８と分離可能に結合されるように、保護引出カバー２００の一端に形成される。保護引出カバー２００の表面には複数の第２通孔２０４が形成されることが好ましい。このような第２通孔２０４は、前述した第１通孔１１０と同様の機能を遂行する。
【００２９】
第１結合片１０８は背面方向に折曲形成されることができる。第２結合片２０２は、互いに離隔して形成される一対のヒンジ端２０２ａを含む。回動バー２０２ｂは、ヒンジ端２０２ａの間に連結形成され、第１結合片１０８に回動可能に抑止嵌めされる。
【００３０】
案内口２１０は、保護引出カバー２００の片面に結合される。案内口２１０は、歯ブラシ４００の頭部４０４を収容して歯ブラシ４００の動作に連動して保護引出カバー２００

を本体１００から回動させる。回動バー２０２ｂは、八角形断面で形成されることができる。これは、保護引出カバー２００を回動させた時、段階的にかかって停止するようにするためである。案内口２１０は、保護引出カバーの長手方向に沿って貫通される函体形状を有することが好ましい。即ち、このような案内口２１０の貫通された部位に歯ブラシ４００の頭部４０４を嵌めることになる。

【００３１】

吸着具３００は、結合孔１０６に分離可能に嵌められ、設置壁面Ｗに着脱可能に設置される。吸着具３００は、設置壁面Ｗに分離可能に設置される吸着部３０２、その吸着部３０２の片面に一体で突出して本体１００の結合孔１０６に分離可能に嵌められる嵌込部３０４からなる。吸着部３０２は、片面が凹んで形成されることが好ましい。これは、設置壁面Ｗに設置する時、吸着力を向上させるためである。

【００３２】

本体１００と保護引出カバー２００には芳香剤が含まれることが好ましい。この状態で歯ブラシ４００を保管すると、芳香剤成分が歯ブラシ４００に移り、良い気持ちを維持することができる。本体１００と保護引出カバー２００には発光体が含まれることが好ましい。これは、発光体の光により夜間にも容易に識別できるようにするためである。本体１００と保護引出カバー２００には、動物や花など、キャラクター形状がデザインされることが好ましい。これは、美観を格段に向上させるためである。本体１００と保護引出カバー２００は、透明な材質で形成されることが好ましい。これは、歯ブラシ掛けＴＢの内部に保管される歯ブラシ４００の清潔状態を保護引出カバー２００を開かなくても肉眼で容易に確認できるようにするためである。

【００３３】

上記のような構造を有する本考案の好ましい実施形態に従う歯ブラシ掛けの作用を添付した図面を参照しつつ説明する。

【００３４】

また、図１乃至図３を参照すると、本考案に係る歯ブラシ掛けＴＢは、本体１００の結合孔１０６には吸着具３００が嵌められて固定される。即ち、吸着具３００の嵌込部３０４が結合孔１０６の拡開部１０６ａに嵌められて狭小部１０６ｂに強制的に嵌められて固定される。本体１００の第１結合片１０８には、保護引出カバー２００の第２結合片２０２が嵌められて分離可能に結合される。言い換えると、第１結合片１０８の折曲形成部内側に第２結合片２０２の回動バー２０２ｂが回動可能に嵌められて結合される。この際、第１結合片１０８自体に弾性があることから、第２結合片２０２の回動バー２０２ｂが強制的に嵌められて容易に抜けることはない。このような歯ブラシ掛けＴＢの吸着具３００は、風呂場などの設置壁面Ｗに分離可能に吸着される。

【００３５】

図４乃至図７は、本考案に係る歯ブラシ掛けから歯ブラシを引き出す状態を順に示す図である。

【００３６】

まず、図４は、歯ブラシ掛けＴＢの本体１００において、保護引出カバー２００が閉じられて歯ブラシ４００が保管されている状態を示す図である。即ち、歯ブラシ４００の頭部４０４は、本体の挿入溝１０４に嵌められ、案内口２１０に嵌められて保管される。保護引出カバー２００は、ヒンジ結合された部位を中心として回動されて本体１００の開放面を覆っている。

【００３７】

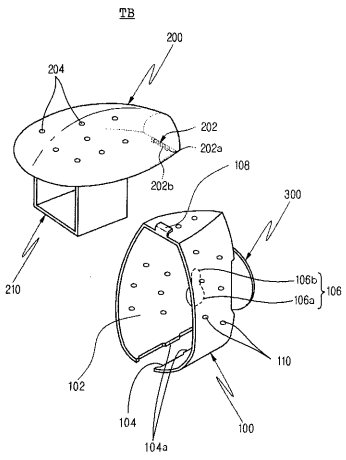
図５は、歯ブラシ４００を時計方向に引くことにより、保護引出カバー２００を本体１００から開放させる状態を示す図である。歯ブラシ４００を使用するために、使用者は歯ブラシ４００の胴部４０２を図５の矢印方向に引くと、保護引出カバー２００は、ヒンジ結合された部位、即ち、第１結合片１０８及び第２結合片２０２を中心として回動されて本体１００が開放される。これは、歯ブラシ４００の頭部４０４が案内口２１０に嵌められた状態であるので、案内口２１０と一体化された保護引出カバー２００も一緒に回動さ

れるからである。
【００３８】
図６は、保護引出カバー２００が本体１００に対して略直角に回動されて本体１００が開放された状態の図である。これは、保護引出カバー２００が最大に回動された状態を示す。ここで、反時計方向の矢印は、保護引出カバー２００が本体１００を閉じる方向を表示している。その時には、保護引出カバー２００の案内口２１０から歯ブラシ４００を取り出す直前を示している。
【００３９】
図７は、保護引出カバー２００の案内口２１０から歯ブラシ４００を取り出す状態を示す図である。即ち、図面において実線で表示された矢印は、保護引出カバー２００の案内口２１０から歯ブラシ４００が抜ける方向を示す一方、図面において一点鎖線で表示された矢印は、保護引出カバー２００の案内口２１０に歯ブラシ４００が嵌められる方向を示す。
【００４０】
図８は、図５の“Ｂ”部分の拡大断面図である。第２結合片２０２の回動バー２０２ｂが八角形の断面で形成されているため、保護引出カバー２００の段階的な開放角度の調節が可能である。この際、第２結合片２０２の回動バー２０２ｂは、第１結合片１０８に人為的な力を加えないと、自ら回動できないようにすることが好ましい。
【００４１】
以上、本考案に係る歯ブラシ掛けＴＢに歯ブラシ４００を掛ける態様を説明したが、その他、カミソリなどに使用することも可能である。
【００４２】
以上では、本考案を前述のように実施形態を挙げて具体的に説明したが、本考案はこれらに限定されるものではなく、当業者は通常の知識の範囲内でその変形や改良が可能である。
【００４３】
本考案に係る歯ブラシ掛けは、歯ブラシだけでなく、カミソリなどを簡便に保管できる用途に使用することができ、その他、水洗用具などの分野に適用可能である。
【図面の簡単な説明】
【００４４】
【図１】本考案の実施形態に従う歯ブラシ掛けを示す分解斜視図である。
【図２】図１で示した歯ブラシ掛けが設置壁面に設置された状態の結合状態断面図である。
【図３】図２の“Ａ”部分の拡大断面図である。
【図４】歯ブラシ掛けの本体における歯ブラシが保護引出カバーを閉じて保管される状態を示す図である。
【図５】歯ブラシを一方向に引いて本体から保護引出カバーを回動させて開放する図である。
【図６】保護引出カバーが本体に対して略直角状態に開放された図である。
【図７】歯ブラシを保護引出カバーの案内口から取り出す状態を示す図である。
【図８】図５の“Ｂ”部分の拡大断面図である。
【符号の説明】
【００４５】
ＴＢ　歯ブラシ掛け
１００　本体
１０２　収納空間
１０４　挿入溝
１０４ａ　係止段
１０６　結合孔
１０６ａ　拡開部

１０６ｂ　狭小部
１０８　第１結合片
１１０　第１通孔
２００　保護引出カバー
２０２　第２結合片
２０２ａ　ヒンジ端
２０２ｂ　回動バー
２０４　第２通孔
２１０　案内口
３００　吸着具
３０２　吸着部
３０４　嵌込部
４００　歯ブラシ
４０２　胴部
４０４　頭部
Ｗ　設置壁面

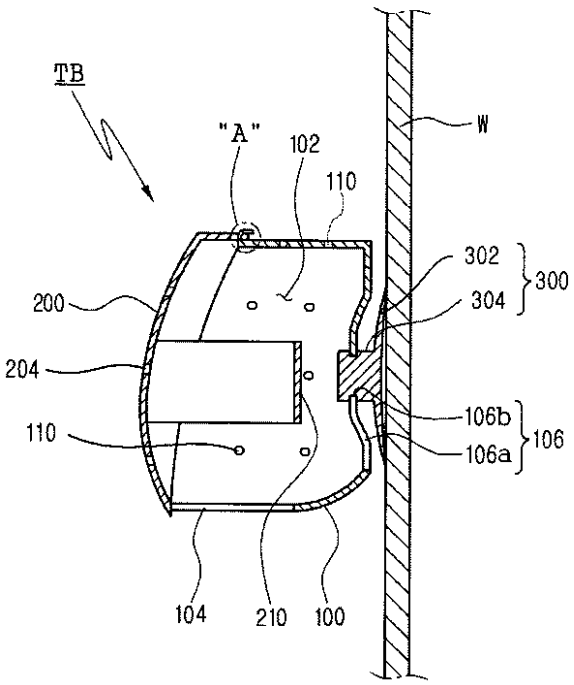
【図１】

図１



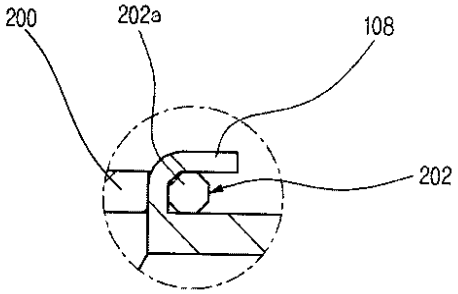
【図２】

図２



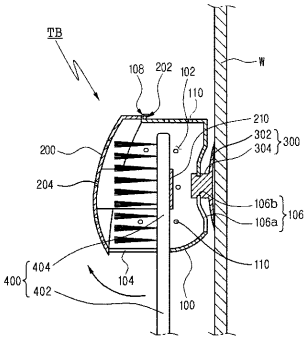
【図３】

図３



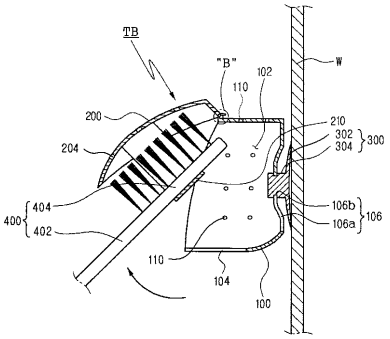
【図４】

図４



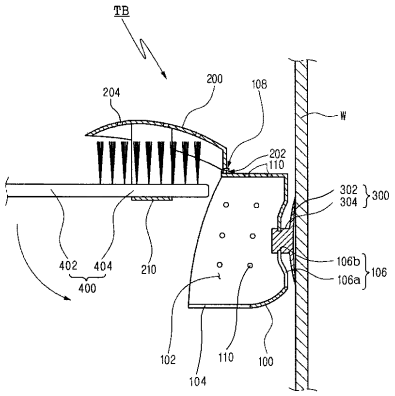
【図５】

図５



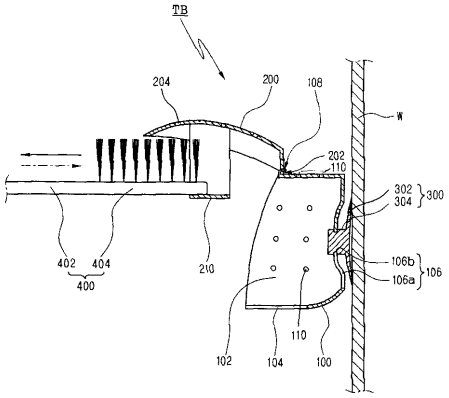
【図６】

図６



【図７】

図７



【図８】

図８

